

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもプラス久留米教室				公表日	令和7年3月10日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	必要に応じて部屋の使い分けを行い、スペースの確保ができるようにしている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	1			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	スケジュールで見通しを立て、こどもたちが活動に参加できるようにしている。必要な時以外はテーブルも片づけ、安全面に配慮している。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	毎日の掃除と換気を行うことで、心地よさだけではなく、感染症の流行なども対策している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	静養室、相談室、事務所と必要に応じて活用できるようにしている。高学年の児童も多く、着替えなどのときにも個室が使えるようにしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	0	職員の出勤時間に合わせて行い、出勤ではない職員にも場を設けることで、すべての職員が参画できるようにしている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	毎日のミーティングなどで意見を出す時間を作っている。意見を出しやすいような風通しの良い職場づくりに心がけている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	2		自治体や他事業所など外部からの評価も行っていきたいと思う。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	事業所で行う研修のほかにも、自治体が行っている研修にも参加することができるようにしている。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0		ニーズに合わせた計画の作成をしているが、一つ一つのアセスメントに時間をかけることができるよう改善していきたい。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	全職員が共通理解のもと支援に携わることができるように、数日に分けて計画書の作成を行っている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	職員間で共有の時間を設けている。いつでも見ることができる場所に保管している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	毎日のミーティングでその日に利用している児童にあった活動内容の立案を行っている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	1		プログラム作成に偏りが見られるため、職員で話し合い立案できるようにしていきたい。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	0			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	児童が安全に活動に参加できるように職員の配置など確認を行う時間を作っている。		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0	できなかったときには、次の日に行うなど共有の場を設けることができている。		

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0		記録を残す職員に偏りが見られるため。着目点の違いも考え、全職員が記録を残すことができるようにしていきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	必要な時期に合わせてだけでなく、児童の成長に合わせて適宜モニタリングを行えるようにしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	5	1		地域交流の機会が少ないので改善していきたい。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をすすめるための支援を行っているか。	6	0	活動だけでなく、おやつなども本人の意思を尊重し、自己決定ができるようにしています。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	児発管が参加している。参加の前には事業所内での担当者会議を開催し情報の整理を行っている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	0	連絡事項や下校時間の確認だけでなく、その日の様子なども送迎時に話す機会を作っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	1	就学前にの担当者会議にも参加し、その時の様子などを共有することができるようにしている。必要に応じて就学後も連絡を取れるようにしている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	1	就労前に行われる担当者会議に参加できるようにしている。必要に応じて情報の共有ができるようにしている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	0		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	3	3		地域交流の機会が少ないため、交流の場を設けられるようにしていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	2		
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	その日の様子などを連絡帳や送迎時などにもお伝えし、課題となる部分を把握できるようにしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2		今後機会を設けていきたいと思う。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	契約時に説明する時間を設けている。利用者負担額については、毎月の代理受領額通知書も説明しながら、配布している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0	児発管が保護者への説明を行い、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	受けた相談については、迅速に対応ができるようにしている。その場で解決しなかった内容は一旦持ち帰り職員との話し合いののち、助言している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	0	6		保護者の方より、要望があった際には開催を検討していきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	体制を整備し迅速に対応できるようにしている。窓口とする電話番号なども契約の際にお伝えし、連絡がとれるようにしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6	0	毎月のお便りや児童に対する安全指導など、HPやInstagramに掲載見ることができるようになっている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	教室内で厳重に保管すること以外にも、教室外で他言することがないようにしている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	必要に応じて、視覚支援た多国語にも対応できるよう翻訳したりと配慮している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	2		初対面に緊張をしてしまう児童も多く、様子を見て招待などしていきたい。

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0		訓練を実施しているが、保護者への周知が不十分なこともあり、周知の方法を検討する必要がある。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	年度始めや新入者社員の入職時にBCPの研修、訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	アセスメントの取り直しを年に一度行い、状況の更新を行えるようにしている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	安全に過ごすことができるように研修を考え、全職員がその研修に参加できるようにしている。年に1度研修の見直しを行う機会を設けている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0	お便りなどを活用し、取り組みの内容などをお伝えできるようにしていきたい。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	ヒヤリハットが起きたときには、職員全員で対策を練り、書類として残すことでいつでも確認ができるようにしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	年に2回以上の虐待、身体拘束についての研修の場を設けている。地域の研修にも参加し、より適切な対応が取れるようにしている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	0	会社全体での指針のもと研修を開き、身体拘束が内容に検討している。		